

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	㈱カワサキ 貝塚物流倉庫 新築工事	階数	地上1F
建設地	大阪府貝塚市二色南町	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域 指定無し	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2023年04月21日
敷地面積	8,577 m ²	作成者	上本 善紀
建築面積	4,422 m ²	確認日	2023年04月26日
延床面積	4,922 m ²	確認者	川崎 久典



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.7

LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。	その他 特になし。
Q1 室内環境	評価対象外	Q2 サービス性能 階高:3.9m以上。 [壁長さ比率] < 0.1
Q3 室外環境(敷地内)		特になし。
LR1 エネルギー	特になし。	LR2 資源・マテリアル 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。
		LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R5-0016

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	(株)カワサキ 貝塚物流倉庫 新築工事						
		建設地	大阪府貝塚市二色南町						
		用途/区分	工場						
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-			
①	CO2削減					3			
②	みどり・ヒート アイランド対策					2			
③	建物の断熱性					評価対象外			
④	エネルギー削減					2			
⑤	自然エネルギー直接利用					—			
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
エネルギー消費量の報告						報告しない			
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.0	3		
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価					-		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.0	2		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項				
特に配慮した事項		特になし。							